

プール学院報

愛と奉仕

14th
POOLE GAKUIN
FOUNDED 1879

第90号

2020年2月・3月
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



勝山キャンパス クリスマスの頃



泉ヶ丘キャンパス クリスマスの頃

CONTENTS

学院長挨拶 1

[短期大学]

秘書科の活動報告 2

幼児教育保育学科
の取り組み 3

[中学校・高等学校]

校長挨拶 4

生徒メッセージ 5

卒業生紹介 5

地域協働学習の
取り組みについて 6・7

理事長メッセージ 7

キリスト教の
メッセージ&コラム 8

同窓会だより 9

法人だより 10

編集後記 10

ご挨拶

どのような扉が開くのでしょうか。

学院長 主教 アンデレ磯 晴久



「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。」
創世記7:16

角野栄子さんという児童文学者がおられます。2018年、角野英子さんは、児童文学の小さなノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞を受賞されました。彼女は1989年宮崎駿監督によってアニメ映画化されて、大ヒットした「魔女の宅急便」の原作者でもあります。

その角野英子さんの「魔女からの手紙」という絵本の中に、「おわりのばあさんのせりふ」というのがあります。

「目に涙をあんなにためて いったいなにがあったのさ この世のおわりって顔してたよ この扉はね、おわりからあくんだよ」

この絵本には、絵本の物語は読み終わったら終わりではなく、終わった瞬間から読んだ人の物語となり、読んだ人の新たな扉がまた開くんだよというセリフが出て参ります。辛いことや悲しいことが起こると私たちは、もうこの世の終わりという顔をしてしまうことがあります。角野さんはそうじゃないよと

言われるのです。終わりではなく、これからまたあなたの新しい扉が開くのだと言われて、わたしたちを励ましてくれています。

最初の創世記の聖句は、ノアの箱舟の一節です。地上に悪がはびこり、不法が満ち、墮落した世をご覧になった神は、洪水を起こして滅ぼそうとされます。しかし、そうした世の中でも悪に染まらず、正しく生きるノアと家族がいました。神はノアに大きな船を建造させ、ノアと家族、そして動物たちもつがいを船に乗り込ませ、ノアの後ろで戸を閉ざされました。40日間水は地上を覆い、ノアたちは生きた心地がなかったでしょう。しかしこれは終わりではありませんでした。後ろの扉は閉められましたが、新しい扉が開かれることになりました。

2019年が終わりと、2020年が始まりました。2020年いろいろなことが起こるでしょう。しかし、絶望せずに、良い未来の新しい扉が開くことを祈りつつ、歩み出しましょう。2020年、どのような新しい扉が開くのでしょうか。

秘書科の活動報告(2019年度・前期)

今回は2名の秘書科教員による「秘書科」に関する内容をご紹介します。大嶋先生からは、プール学院創立140周年記念感謝アセンブリーでお話いただいた当時の学生との楽しいエピソードをまとめていただきました。秘書科ではアクティブラーニングを積極的に取り入れています。今年度、秘書科の新規プロジェクトが1件、立ち上がりました。企画・実施に携わっておられる谷口先生から、その活動についてご紹介いただきます。

愛すべき学生たちの追憶

秘書科教員 大嶋 耕一

私は本年度末で定年退職となりますが、本学に奉職したのはなんと32年前。いやや本学の「生き字引」あるいは「シーラカンス」・・・どちらなのかは皆様のご判断に!



140周年記念感謝アセンブリー(6月5日)での大嶋教授

さて、その間学生たちは大きく変化していきました。

三十年前、たったひとつのコンピュータ室は、夕刻守衛さんが閉錠に来るまで自習する学生でごった返していました。でも、最近では・・・カーテンを閉め切りエアコンを効かせて寝ている姿はまれに見えます。

でも、真面目で心根が優しいという点では変わっていないような気がします。もちろん保険のため「総じて」という言葉は付け足しておきますが・・・十年ほど前になりますが、授業で「不整脈が出て心臓がちょっと・・・」と小さな声で言った途端、それまで少し騒がしめだった教室が静まりかえり、学生たちの心配そうな目が私に集中したのがいまだに忘れられません。

実はそれよりも、もっともっと忘れられないのが、二十余年前のスキー合宿での学生の「遭難」事件です。当時は、「保健体育」が学生の必修授業で、その一環として水泳、スケート、スキーのいずれかが必修になっていました。スキーは4日ほどの合宿でしたがたくさんの学生が参加し、十数名ほどのグループに分かれて実習していました。もちろん、指導者は全国から集まってきたバリバリの大学体育教員で、私は往復の引率と実習時の連絡巡回が担当です。

あるとき、徐々に霧が深まる中、ひとつのグループに近づいていくと、騒然としているのに気がきました。「どうしたか」「タイヘン! 一人いないんです。ほんの少し前までいたのに」、霧で迷子になったようです。そのグループの掌握と本部への連絡はその先生に任せて、私は搜索に、まさしく言葉通りすっ飛んでいきました。そのゲレンデの上は四方にゲレンデが広がっていて、どちらに行ったのか見当がつかず。特設コース自体に危険はないので、降りた可能性の高い方から捜していきました。二、三十メートルほどしか視界がきかないこともあり、かなり手こずった末、ようやく反対側ゲレンデを降りたところに見慣れた

ゼッケンの学生を見つけました。近づいていって声を掛けると、突然その学生がべそをかき始めました。余程不安だったのでしょう。私も安堵の涙が出かかったそのとき、「○○先生に怒られる～」。私は思わず笑いを押し殺す羽目になってしまいました。なんと愛すべき学生たちなののでしょうか。

秘書科プロジェクト・東京CSR研修報告

秘書科講師 谷口 浩二

株式会社ローソン様のご協力の元、東京にて秘書科プロジェクトを実施しました。日帰りというハードなスケジュールでしたが、それぞれが必死にメモを取りながら、最先端の取り組みに聞き入っていました。



慶應義塾大学内・店舗訪問の様子

現在、国連にてSDGsへの取組みが決議され、世界各国の企業がSDGsに取り組んでいます。ローソン様もその一つです。今回の視察では、SDGsの中でも、2の飢餓、7のエネルギー、12の生産・消費、13のエネルギーに焦点を当てた活動事例に触れました。

例えば、ノンフロン冷凍・冷蔵システムですが、これはフロンと比較して地球温暖化の影響が4000分の1になるとのこと、また、規格外野菜を有効活用したサラダなど、社会課題をローソン発で解決するという姿勢が強く感じられました。このように持続可能な消費と生産のパターンを企業が模索しているのです。しかしながら、生産者側だけでなく、消費する側もこのような活動を理解し、このような活動をしている企業からなるべく購入するよう賢さを持たなければなりません。そうすれば、さらに企業はSDGsの推進に力を入れるはずですよ。

この研修を通じて、社会課題と対峙する生産者側の取組みを理解すると同時に、賢い消費者「グリーン・コンシューマー」への足掛かりも掴んだのではないのでしょうか。学生の皆様お疲れ様でした。



幼児教育保育学科の取り組みについて

鳥取にて学生砂像グランプリに参加

9月14日から3日間、鳥取市にて行われた「学生砂像グランプリ」に、幼児教育保育学科1回生の田村 絢奈、藤本陽、山中優の3名が参加し、巨大な砂像を作り上げました。このイベントは全国の大学生を対象として行われており、今年度の全体テーマは「アニマルワールド」。北海道や京都、大阪、鳥取などから6チームが参加。



3日間とも真夏のような日差しが照りつける中、まったく初めての経験に戸惑いながらも、付き添いと指導に同行した織田恵輔准教授、原田昌幸准教授の指導のもと、「うさぎとかめの運動会」をテーマに制作を開始。身長を超える高さの砂山に圧倒されながら、スコップなどを手に掘っていくと、徐々に姿が現れてきます。立体作品を作ることも初めてなので、大きな砂山からどうすれば思い通りの形が生まれるのか、頭を悩ませながらも、3日間チームワークは崩れることなく、見事に作品が完成。優勝は逃したものの、子ども達からは一番人気。中央の籠を目がけてうさぎとかめが一生懸命玉入れをしている姿に、親子で楽しむ姿が多く見られました。



さかい保育出張就職フェア開催

2019年7月18日、10月10日にさかい保育出張就職フェアを開催しました。フェアには、堺市にあるこども園・保育所のうち、のべ19法人29園が参加して行われました。

学生たちは、各園のブースを訪れ、現場で働く保育士の先生方に直接、仕事現場の話を聞いて回りました。熱心なまなざしで、聴き入る姿が見られました。フェア後の感想によると、「複数の園の話が聞け、自分がどんな環境で仕事をしたらいいのか分かった」、「仕事内容や選考試験内容が聞けてよかった」、「志望度が高まった」など、保育士として働くことの意識や、自分の



志望を再確認できた貴重な機会になったようです。普段の学習と働くことがリンクし、より一層、保育士の役割の重要性を感じたようです。

韓国短期研修報告

1年 岡澤 紅果 / 川津 智香

8月4日から18日までの間、ソウル市内にある聖公会大学へ韓国研修に行ってきました。

授業は、1時間50分間の授業が毎日4時間あります。文法、単語や会話といった韓国語の基礎的な内容です。また、自分の友達を韓国語で紹介するという発表の授業もありました。

授業のない午後には、さまざまな文化体験ができ、太鼓やうちわづくりを体験し、明洞へミュージカル鑑賞に行った日もありました。現地の学生と交流をとる機会もあり、自己紹介をしたり、自分の好きなものを話したり、日本の友達と同じように会話し、楽しい時間でした。たくさんの人の親切、優しさに触れた研修になりました。



「ぽてっこクラブ」開催

本学科では、学生が保育環境を整え、子どもたちや保護者の方々とコミュニケーションをとり、子育て支援を学ぶ機会として、「ぽてっこクラブ」を開催しています。今年度は、22組の親子を迎えて11月16日

(土)に開催しました。各学生は担当する親子と過ごし、芋ほり、おもちゃ作り、シャボン玉遊びなど自然に触れ、新しい体験に出会いました。プログラムは、学生主体で執り行い、司会進行、手遊びや紙芝居など多彩な企画がありました。最後には、自分たちで掘ったさつまいもを焼き芋にし、美味しくいただきました。焼きたての甘い香りと、夢中で頬張る親子の笑顔がたくさん溢れていました。

学生たちは、子どもたちからの要求にも臨機応変に対応する姿が見られました。子どもたちと触れ合うこと、保護者の方とコミュニケーションをとる経験を通し、保育者とはどんな役割があるのかを体感し、保育者としての関わり方を学ぶ良い機会となったのではないのでしょうか。





創立140周年を振り返り

校長 吉田 幸一

2019年6月1日に創立140周年の感謝礼拝を行いました。知恵と愛の源である神様のみ心によって建てられたプール学院を140年間守り続けてくださったことに感謝し、次の150年に向けての新たな一步を、神様のみ恵みによってスタートすることができました。

創立140年を祝した横断幕と垂れ幕を西門と正門に掲げました。歴史と伝統あるキリスト教主義のプール学院を地域の方に改めて認識いただくことと、生徒たちの矜持(きょうじ)に役立ってくれることを期待しています。

また、一般社団法人POOLEの同窓会役員と自治会役員生徒との懇談会も実施されました。変えることできないものを受け入れる平静さを持ち、変えることができるものについてはそれを変えるだけの勇気を持つという、不易と流行を考え、2029年の創立150年に向けて、プール学院への期待を確認する良い機会となりました。

併せて、PTA、同窓会と後援会の協力を得て実現したJR天王寺駅での電子広告は、トピックスとして挙げるができます。10月7日～13日の期間に実施され、プール学院の広報に大いに役立ってくれたことと思われます。

さらに、直接140周年を期してというわけでもありませんが、茶道同好会が発足しました。生徒たちの中から、茶道を習いたい、お点

前をしてみたいなどの要望が校長室に寄せられ、さっそく茶道体験会を開催したところ、28名の生徒が集まりました。そのことをきっかけに、校内の手続きを経て茶道同好会がスタートしました。講師は、同



茶道同好会発足

窓生で他校でも茶道教授としての経験のある田中宗三さんと私でおこなっています。顧問には林恵美子先生になっていただきました。

次に、クラブ活動にもふれたいと思います。放送部、フォークソング部は全国大会への出場を果たし、吹奏楽部、ソフトボール部、体操部、書道部、美術部などが金賞、大阪府知事賞などを受賞しました。今後の運動部、文化部、宗教部や同好会の活躍を期待します。

また、2019年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(グローバル型)の認定を文部科学省より受けました。人口の5人に1人が外国籍で60カ国以上の国から住民が集まる生野区において、地域の課題に深く関わりつつ、グローバルな視野をもって多文化共生社会をリードする人材育成の方法を考えることを主題に、高等学校1年生24名が参加するグローバル・スタディーがスタートしています。

最後になりますが、私たちは神様から尊い“いのち”を与えられ、一人ひとり異なる“才能”を与えられています。神様は「不可能の数だけ、可能性があります」と私たちに語りかけてくれています。人を花咲かせるためにできることがあるなら、それをしましょう。誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれます。私たちは常に神様の微笑みの中にあります。祈りの人となって未来を拓いていきましょう。



横断幕と垂れ幕の除幕式

JR天王寺駅での電子広告



同窓生と自治会生徒との懇談会

生徒メッセージ

充実した3年間

中学器械体操部 生駒 あずみ

私は体操部に入部したくてプール学院に入学しました。5歳の時に始めた体操、今も毎日練習に励んでいます。特にこの3年間、筋力をつけることに頑張ってきました。最初はしんどいと思っていたトレーニングも毎日続けることで必要な筋肉が少しずつ、ついていきました。まだまだ柔軟性が足りないので、美しい演技ができるようにこれからも頑張りたいと思っています。

女子体操には跳馬、段違い平行棒、平均台、床の4種目がありますが、中でも私が得意なのが跳馬です。中学2年に上がるまで「ツカハラ」という技に挑戦してきました。この技を跳べるようになって、試合で賞を取りたいと一生懸命練習しました。もちろん、簡単にできるようなにはならないので、最初は先生に補助してもらい、何回もくり返して練習していくうちに1人でも跳べるようになりました。そ



の成果が実って、中学2年の大阪市の大会で、跳馬で優勝することができました。その時はとても嬉しかったのですが、中学3年の夏の府の大会で他校のライバルに負けてしまい、2位という結果に終わりました。この悔しさをバネに次の試合までに、着地姿勢など細かいところまで調整をして、優勝できたときは達成感があふれました。

体操は個人競技ですが、プール学院では中高一緒に練習をしているので、みんなで教え合い、高めあえるのが一番の魅力です。練習で苦しかったり、怖かったとき、何度も辞めたいと思ったこともありましたが、今まで続けてこられたのも、みんなのおかげだと思っています。試合前の練習では気持ちを高めていけるように、後輩たちにも声かけをするように心がけています。その意味では団体競技とも言えると思います。

「体操が好きだ」という気持ちを忘れずに高校でも頑張っていきたいです。

シリーズ
第30回

活躍する
卒業生

大学院生

石原 優香さん (第123回卒業生)

みをつくし ~今までも、そしてこれからも~

私は家が近かったこともあり、新しく生まれ変わるプール学院を身近に感じながら育ちました。ちょうど今の校舎が完成した頃、中学校へ入学したのですが、その時の喜びは今でも鮮明に覚えています。



願書に書いた将来の夢はヴァイオリニストになること。何度もくじけそうになりましたが、出会った友人がそれぞれの目標に向かって努力する姿に励まされ、切磋琢磨した学生時代のおかげでここまでやってこられました。

学生時代の思い出は数えきれませんが、真っ先に頭に浮かぶのは清心館での思い出です。中学時代は毎朝の礼拝場所でしたし、合唱コンクールにむけて

クラスで練習をしたり、文化祭ではダンスをしたり…大学受験前には予行練習として音楽科の先生方に何度も演奏を聴いていただいた思い出の場所です。

大学院を卒業する今年、皆様のご好意により、大学から共に勉強してきた仲間と弦楽四重奏の演奏会をさせていただけることとなりました。お世話になった先生方、先輩方そして同じ時間を過ごしてくれた大切な友達、皆様に感謝を込めて演奏いたします。

まだ音楽家として第一歩を踏み出したばかりです。プール学院で学んだ事を糧とし、本当のヴァイオリニストになれるよう、これからも精進いたします。



写真左が石原さん

地域協働学習〈Glocal Study〉の取り組みについて

中高教務部長 勝見 昌浩

Glocal Studyは、高I特進コースの希望者対象で今年度より実施している特別選択科目です。私たちの学校がある生野区の地域課題を、フィールドワークなどを通して深く知り、高校生として実際にできることは何かを考え、アクションを起こすことを目標としています。実社会に直接つながる探求学習の取り組みです。

地域の自治体・企業・NPO法人などと協働して、グローバルな視点を持ってコミュニティを支えるリーダーを育成するという趣旨から、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」のアソシエイトとしての認定を受けています。

生野区は、5人に1人が外国籍住民であり、住民の国籍は60カ国以上におよび、外国籍住民比率は都市部日本一です。また、日本で最も在日韓国・朝鮮人が多く居住する地域でもあります。生野区について知ることは、多文化共生社会のあるべき姿を学ぶ格好の機会となっています。

これまで実際におこなった代表的な活動と協働のパートナーは、次のとおりです。

- ・生野と在日の歴史を学ぶフィールドワーク (NPO法人聖公会生野センター)
- ・地域企業の商品開発について学ぶワークショップ(ロート製薬)
- ・在日コリアン高齢者ボランティアについてのお話 (コリアボランティア協会)
- ・NPO法人アジアハウス附属海風日本語学舎で留学生と対話
- ・多文化共生の町づくりについてのワークショップ(生野区役所)
- ・〈やさしい日本語〉で外国籍住民に日本での暮らしをインタビュー (生野区役所／大阪ベトナム友好協会)

この授業を通して印象深いのは、それぞれの現場で活躍されている方々、また取材等に応じてくださった方々の「言葉の力」です。生徒は、日常接したことのない多様な方々とのコミュニケーションを通じて着実に視野を広げているように感じられます。社会の一員として何ができるを考える、開かれた学校教育の可能性がここにあるように思われます。

今まで受けたことのない授業

高校I年A組 岡田 梨花

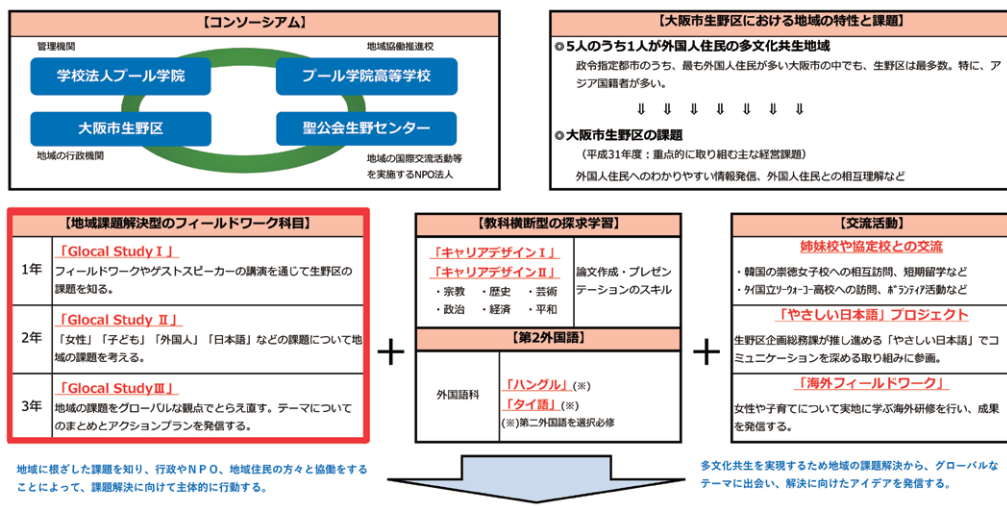
「やさしい日本語」の活動で、初対面の外国人の方と長くお話する機会を持ってました。やさしい日本語とはどういうことなのか、何がやさしいのか最初はわからなかったけれど、区役所の方の講義を聞いたあと、自分で実際に話してみたり訳してみたりしたことがとても新鮮でした。この授業を受けて、さまざまな人々に接することに壁がなくなったと思います。これからも多くの人とコミュニケーションをとってみたいと思うようになりました。

「きっかけ」になりたい

高校I年A組 山口 杏莉

ベトナムの女性に日本についてインタビューしたところ「日本人は対応が少し冷たい」と言われました。確かに駅や道端で困っている人がいても、勇気があまりなく「誰か」がするまで「待つ」ことがよくあると思います。でも「誰か」がするとみんな始めるので、私は「きっかけ」になれる人になりたいです。小さなことでも自分がしてほしいことはまず自分でしてみる、ということを考えながら行動したいと思います。

ブール学院高等学校 2019年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」 大阪市生野区から発信する多文化共生社会の実現を目指す実践的カリキュラム



〈やさしい日本語〉講義風景



インタビュー風景

地域の課題に深く関わりつつ、グローバルな視野をもって多文化共生社会をリードする人間の育成

創立150周年に向けて

理事長 吉田 幸一

創立140周年を期して、次の10年後の創立150周年(2029年)に向けて策定したPooleGakuinAction150(略称PGA150)を紹介いたします。

なお、2020年6月2日の創立記念日には、創立150年に向けてと題して、教学と経営両面のより具体的な施策を公表する予定にしています。

1. キリスト教精神に基づいた愛と奉仕の担い手である
サーバント・リーダー(Servant Leader)の育成
2. 安定的かつ持続可能な学校経営の実現
3. 世界と地域に貢献するグローバルな教育の実践
4. 学生・生徒の教育満足度を高め、
社会に貢献する人材の育成
5. 良き教育者を育成するための教育環境の充実

当世、学校の役割として、学生や生徒に授業をするのみでは時代の要請に十分応えた教育活動としての役割を任じているとはいえません。プール学院では短大副学長の西尾先生のお力も借りながら、茶道と森鷗外の『舞姫』を事例として『日本人の心の形成を考える』と題した社会人講座を開講しました。アンケートの結果から、プール学院の社会人講座の継続的な開講を希望されていることが理解できました。



時代の変遷や社会の荒波の中で、波が強かつ高い場合である時こそ、プール学院の建学の精神である「神を畏れ、人に仕えよ」は私たちの心を打ちます。次代を担う生徒と学生を社会に送り出すキリスト教精神に基づく学校の使命を改めて見直す良い機会です。生徒と学生の夢は、教育に携わる私たちの夢でもあります。救いの源である神様は、主イエス・キリストによって、私たちに新しいのちを与えてくださいます。「さあ立ち上がって、行きなさい」といわれているようです。主のみ言葉を受け止め、喜びのうちに前に進む勇気と希望を与えられました。

「このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。私たちは知っているので、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」(ローマの信徒への手紙5章2~4)



ロート製薬ワークショップ

商品開発について学んだこと

高校I年A組 大部 楨

私はロート製薬の方と新しい商品を考えてことが印象に残っています。皆で話し合って意見を出し、買ってもらう立場になって考えることを初めて学びました。世の中に次々とあらわれる新商品には、正直知らないものもあるのではないかと感じていましたが、一つひとつに意味があり、どんどん便利になっているのに驚きました。これからも進化し続ける社会に面白さを感じました。

正しいイメージ

高校I年C組 木村 美月

授業で印象深かったのは、日本で生活している留学生の方へのインタビューをしたことです。会話を楽しくむうちに、今まで感じてきたその国のイメージがガラッと変わり、新しくより良いイメージになり、私が見ているものは世界のほんの少しのことだけなんだと強く感じました。また日本に対して悪いイメージや誤った情報を持っている人も少なくないと思いました。これから高校生として積極的に世界の人々と正しい情報を「交感」しあいたいです。

国境をこえてつながる

高校I年D組 古川 実佳

私が印象に残った活動は、アジアハウス日本語学舎へのフィールドワークです。ベトナムから来た18歳の女性とお話をしました。彼女は将来、日本で就職するために留学をしていました。日本語の勉強をしながら学費や生活費のためのバイトもしていて、本当にすごいなと思いました。この授業を受けるまで、生野区に在日外国人が多いことを知りませんでした。知っていくうちに、日本語で生活していく難しさがわかりました。人種や性別、生まれは関係がない……そんな考え方の人が増えて国境を越えてつながることができる、幸せに暮らせると思います。

中学校・高等学校

「ちりあくた(塵芥)」

芸術科教諭 ヨハン・青山 一郎

私はクリスチャンになってまだ1年と少ししかたたないのですが、毎週日曜日の教会での礼拝はとても心が落ち着く癒しの場となっています。特に聖餐式ではキリストの血と肉をいただくという、最も大事な儀式が行われます。血はワイン、肉はウエハースなのですが、司祭様にいただく時、毎回少し緊張しますが、食したあとの満足感は何にも代えがたいものがあります。月曜日からの仕事を頑張る勇気をその時いただいていることを実感できます。

教会の方々もとても良い方ばかりで、お話ししても普段の職場にはない話題が豊富で、とても気分転換になります。色々な経歴を持つ人々が集まるのが教会であるといってもいいでしょう。そして礼拝の中で司祭様のお話はとても心に響くことが多く、聖書の言葉をより分かりやすく、より実体験に基づく具体的な様子や風景などを思い浮かべることができます。

中でも最近特に印象に残った言葉が、ちりあくた(塵芥)という言葉です。本校でも長きに渡りチャプレンをされていた岩城司祭のお話の中で出てきた言葉で、日々気にしていることや、こだわっていることや、あれがしたいこれが欲しいと思うようなこと、これらはみんなイエス様の大事にされてきた様々なことに比べたら、塵のようなものだ、大切なものは愛以外にない、というようなお話だったと思います。私たちは日常生活において悩み、苦しみ、間違えることだらけです。でもそんなことをいちいち気にしていることがとてもくだらないどうでもいいことなのだ、と私には思え、何か心の霧が少し晴れたように思えました。

言葉は人を変えることができます。音楽は人を豊かにすることができます。私はやはりこの二つのものを今までもそうであったように、これからも大事にそしてもっと深く極めていきたいと思っています。



短期大学

『40日間』

チャプレン ヒューム ユーワン



2月末、教会は大齋節に入り、大齋始日は2月26日になり、灰の水曜日とも呼ばれています。大齋節は復活日(イースター)と直接的な関係があり、毎年、復活日に当たり日が変わりますので、大齋始日はその年によって変わります。大齋始日から復活日までは46日ですが、日曜日を数えなければ、40日になります。復活日はイエス様の蘇りを記念する祝日ですので、大齋節の40日間はとても重要な期間で、復活日の前の準備期間になっています。初期教会の中では、復活日の前の準備期間はそう長くありませんでした。地域によって、3日間か、1週間か、というような違いはありましたが、どの地域でも現在の大齋節の40日間との共通点が一つあります。その共通点とは断食することです。確かに、初期教会の中の断食は厳しいものでしたが、中世時代から、断食についてのルールは段々緩くなっていきました。イエス様は私たちが救うために十字架上で亡くなるので、大齋節は懺悔する時期になります。現代では、大齋節中の断食よりも、慈善のために寄付をしたり、慈善活動を行ったりすることの方が強調されるようになりました。40日間の重要性とは何でしょうか?新約聖書の中で、悪魔から誘惑を受けた時イエス様は40日間断食をしたということです(マタイ福音書4:2;ルカ福音書4:2)。旧約聖書の中では、モーセは40日間の断食を二度、行いました(出エジプト記34:28;申命記9:9)。

1月末からプール学院短期大学では試験期間となります。試験の間はきついで、試験対策が大変だと思います。私の母国語は英語ですが、日本語で日本人達が受けるのと同じ試験を何度も受けたことがあります。私にとって、その試験対策は大変でした。どの試験を受けても良い結果を得るために、色々なことを一時期やめて、勉強に集中します。そのようなことは大齋節中の断食とは違いますが、試験対策と断食には共通点があります。その共通点は自制を働かせるということです。また、両方は不確かな時期に行うのではなく、ある期間に行います。そのような自制を働かせるのはスポーツにも見られます。去年、ラグビーワールドカップ2019大会が日本で開催され、今年のオリンピックも日本で開催されます。聖パウロは教会の信徒を励ますために次のように書かれました。「競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、私たちは、朽ちない冠を得るために節制するのです」(コリントの信徒への手紙I 9:25)。皆さん、頑張ってください。



半期のご報告

一般社団法人POOLE理事長
鈴木 光子(高73回・小柴)



昨秋の台風19号、また大雨により甚大な被害をうけられた皆様にお見舞いを申しあげます。一日も早く日常がとり戻されますよう心からお祈りいたします。

同窓会ではプール学院創立140周年を記念して7月13日に大同窓会を開催し220名の皆様と共に楽しいひとときを過ごすことができ感謝でした。9月の賀寿祝福礼拝には100歳の方を筆頭にそれぞれの回生が祝福をうけました。11月には中部支部会が名古屋で、九州支部会が博多で、12月には関東支部会が東京で開催されました。北米支部ではプール学院の留学生のサポートをしておられ、米国東部支部では皆さんが集い交わりを深めておられます。私たちはプール学院に繋がってひとつなのです。

最後にプール学院に深く心を寄せてくださった同窓生の八千草薫さんが10月24日に逝去されました。9月に電話でお話したお声が耳に残っております。魂の平安をお祈り致します。

2019年度プール学院ミヅパ会 (短期大学・大学同窓会) 総会報告とお願い

プール学院ミヅパ会会長
五十嵐 よし子(高84回・短英26期・佐藤)



ミヅパ会総会は2019年10月26日(土)大学祭同日に、桃山学院教育大学生とプール学院短期大学生で賑わう泉ヶ丘のキャンパスで開催されました。初めての参加者・お子様連れの卒業生・学生会の代表者方を迎え、礼拝、活動報告・会計報告・課題提案へと続きました。母校プール学院短期大学は2021年3月の卒業生を以って閉じられます。新会員・会費収入が減じ、ミヅパ会単独での活動が困難となるため、今後は同窓会本部の協力を得て、共に歩みを続けていくことが提言されました。最後にゴスペルシンガーによる音楽会を楽しみ秋の一日を終えました。

さて、ミヅパ会では文集「学窓追懐Ⅱ」を記念に上梓することを企画しております。ぜひ会員皆様の寄稿ご協力をお願い申し上げます。
(総会の詳細、文集につきましては、ミヅパ会ホームページをご覧ください。)
<http://poole-mizpah.jp/>



2019年度 クラス代表者会 開催報告

常任学年代表委員会委員長
桑平 麻由子(高86回・桑村)



2019年11月2日(土)プール学院会議室に於いて60名のクラス代表者、理事が集い、2019年度クラス代表者会を開催いたしました。

吉田幸一プール学院理事長・中高校長より新任のご挨拶を

いただき、続いて鈴木理事長から140周年記念事業についての報告、各委員会委員長に



よる活動報告がありました。第2部では『プール学院の現在と未来について』と題し、吉田理事長よりお話を伺いました。これまでのご経歴、着任までの経緯や学院における新しい取り組み等についてのご説明に参加された方は熱心に耳を傾けていました。

また、これまで茶道部がなかった学院に茶人でもある吉田校長の提案で茶道同好会が新設され、同窓会館1階和室で生徒達が茶道を習い始めた事もご報告頂きました。

第6回 賀寿祝福礼拝 開催報告

広報委員会

2019年9月14日(土)11時よりプール学院勝山キャンパス・清心館において「第6回 賀寿祝福礼拝」が無事執り行われました。今年100歳を迎えられた妻鹿英子さん(旧制高校46回・新田)に同窓会からお祝いの花束をお渡ししました。還暦(60歳)35名、古希(70歳)15名、喜寿(77歳)6名、傘寿(80歳)以上15名、計71名の参加者お一人お一人に祝福を頂き、世代を超え和気藹々と楽しい交流となりました。



140周年記念事業「大同窓会」開催報告

広報委員長 浦垣 敏子(高77回・江畑)

2019年7月13日(土)11:30~リーガロイヤルホテル大阪にて、プール学院創立140周年記念祝会「大同窓会」が開催されました。司会 関野佳世子(高88回)の進行のもと、第I部 礼拝・メッセージで会場は静謐な空間となり、第II部 会食では美味しいお料理を堪能し、第III部 小川理子トリオJAZZコンサートではスウィングから讃美歌まで幅広い曲目をご披露頂き、第IV部 新旧校歌を全員で合唱して閉会となりました。

ひときわ注目を集めましたのは親子三代プール学院卒業生の妻鹿英子様(旧制高46回)古川和子様(高75回)古川美奈様(高103回)そして会場内を走り回っていた可愛いお嬢さん(四代目?)のファミリーでした。



主の霊に導かれ約220名の同窓生が集い、2歳から100歳までの年代が一堂に会し、卒業生がひとつになったまさしく「大同窓会」でした。



1 プール学院短期大学について(3)

以下についての進捗等をご報告いたします。

「短期大学記念室(仮称)」の設置について

前号(89号)でお知らせしましたとおり、勝山キャンパス内に短期大学記念室(仮称)を設置します。同室には、短期大学の歴史資料やパネル等を展示する予定です。現在は、2021年度中の開室を目指して、中学高等学校と桃山学院との調整および資料整理等を進めています。詳細は、来年度以降の学院報等で随時お知らせいたします。

短期大学に関する問い合わせ・証明書について

88号でお知らせしましたとおり、問い合わせ及び証明書については、在学生が卒業するまでの間は現状と同じです。それ以降は、法人本部(大阪市生野区勝山北1-19-31、電話06-6741-7005)で行います。具体的な証明書の申込方法等につきましては、来年度以降の学院報やホームページにてお知らせいたします。

なお、プール学院大学をご卒業された方の証明書につきましては、先般からお知らせのとおり、桃山学院教育大学(大阪府堺市南区槇塚台4-5-1、電話072-288-6655)で発行いただいております。

2 プール学院140周年の記念小冊子(仮称)

130周年(2009年)以降の10年間のプール学院の歩みを、年表と写真で綴る記念小冊子の作成を計画しています。

なお発行は、2020年6月を予定しております。

3 日本聖公会関係学校展

「日本聖公会関係学校展」に参加しました。

2019年7月20日～9月20日、「日本における聖公会の教育機関・関連施設-その創立と現在-」というテーマで、全国の聖公会関係学校13法人が立教学院展示館(立教大学 池袋キャンパス)に集いました。

本校はPoole主教夫妻や学校今昔の写真を提供し、プール学院140年の歴史等をご紹介します。



プール学院140年の歴史
展示風景

学院人事

学校法人役員・評議員

〈就任〉-2019.8.1付-
理事・評議員 阪 広久

訃報

●今中 洋子
2019.11.26 逝去
1997.6.1～2019.11.26
短期大学事務職員

ご在職中のお働きを覚え、
つつしんで魂の平安を
お祈り申し上げます。

ご寄贈感謝

中学・高校

〈ピアノ〉
○市場 美保氏(中高講師)
ヤマハアップライトピアノ1台

編集後記

『～八千草さんが大阪の聖泉高等女学校(現・プール学院)に通った少女時代は、第2次世界大戦のさなか。《中略》「戦争は私たちの夢をはぎとっていききました」「聖書も、ガリ版ずりの賛美歌集も、戸棚の奥にしまい込まれ、そして最後は戦災にあった我が家と一緒に焼かれてしまいました」～』これは、2019年10月29日の朝日新聞朝刊に掲載された文章です。無理やり学校名を変えさせられる、聖書も賛美歌も奥にしまい込まなければならない。そんな社会状況にならないよう祈っています。そして、建学の精神を守りつつ150周年(2029年)を迎えたい。「桜」